

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370204111		
法人名	ヨンケン不動産株式会社		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	岡山県倉敷市真備町川辺2136-1		
自己評価作成日	平成25年9月17日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近くには民家、病院、商業施設があり、生活にも便利である。周りには田園もあり、季節の移り変わりが感じ取れる自然にも恵まれた環境の中に立地している事業所です。「自立・笑顔・夢・希望」自立への喜びは明日への夢と希望、一人ひとりに寄り添う笑顔の介護を理念とし、幅広い年齢層の職員がチームワークよく、笑顔あふれるホームである。利用者様、ご家族とのコミュニケーションを大切にし、共に支え合う関係作りを築くように努め、利用者様お一人お一人の心に寄り添い、一日一日を大切に支援するよう心掛けている。今年から、利用者様、ご家族の安心をより広げるために、訪問看護ステーションを活用し、医療と介護の連携強化に努めた。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成25年10月22日		

園長・管理者・職員が、利用者を中心としたケアに、日々絶え間ない努力をされていました。開設して、約8年が過ぎ、利用者の高齢化・重度化が進む中、食事面・入浴・外出等に、事業所として出来る最大限の力を出し、日々の介護に邁進されていました。介護サービスの中で重要なチームケアを施設全体で実践されていました。利用者家族との良好な関係づくりにも管理者だけでなく、職員も含め事業所全体で取り組まれていました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念と共に目の届くところに掲示し、朝礼時に全員で復唱している。また、職員会議で理念を実践に繋げるためにはどうしたら良いか話し合っている。	「自立・笑顔・夢・希望」理念に掲げていました。園長 管理者 職員が常に理念を念頭に置き、日々の業務に反映できるよう努力をされていました。	職員の交代などもあり理念の理解に差があるようなので理念の共有に努め、実践に活かせる様取り組まれる事を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営母体代表者は福祉の充実を願い、幼稚園、小学校でパン作り教室や収穫祭を行ったり、高齢者とのゲートボール大会などを開催し、地域との交流に長年取り組んでいる。	小学校の支援学級との連携、商業地である事の利便性を活かし近所のスーパーへの買い物など、日常的な交流をされていました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や幅広いボランティアの方を受け入れたり、中学生職場体験などを通して、認知症の人々の理解を求めている。また、地域の高齢者のことで困られていることなどの相談にも応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、民生委員、地域包括支援センター、介護保険課、老人クラブ、ボランティアなどの方々にご参加いただき定期的に開催している。会議の中で出た意見や助言はサービス向上に活かしている。	市職員 包括 家族 地域の方 事業者が参加し定期的に実施されていました。開催が平日の為、家族の参加が固定化しているが、別に家族会を開催するなど極め細やかな対応がされていました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市、地域包括支援センターともに運営推進会議に出席していただき、事業所の取組みや実状を伝えている。また、行政に対する要望や意見なども聞いていただいている。	運営推進会議にも毎回出席が見られました。それ以外に報告、相談、法令のことなど日頃から連絡をとっている。市主催の研修にも積極的に参加されていました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間のみ玄関リビングの鍵を施錠している。身体拘束に値する行為は職員全員が理解できている。言葉の拘束に関しては、職員全員が気をつけようと意識していると共に、お互いに注意できる環境作りにも努めている。	職員に身体拘束・虐待に対する意識調査アンケートを実施されていました。アンケートを基にミニカンファを開催するなど、身体拘束をしないケアの実践に努力されていました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待行為はない。職員全員が意識して気を付けている。同じ内容でもニュアンス次第で気づく聞こえてしまう為、気になる時にはその都度注意し、考え、話し合うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見制度を利用している方がおられたことをきっかけに、勉強会を行い、制度の理解に努めている。現在も制度利用者が1名おられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には、時間をかけて丁寧に説明を行いご家族の理解、納得を得るようにしている。また、改定変更事項があった時には、一家族ごと直接説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置しているが、日頃から利用者、ご家族とのコミュニケーションを大切に、日常会話の中から意見や要望を聞き取り、反映に努めている。今年から、ご家族へのアンケートも始めた。	なかなか意見箱には意見が入らないようですが、ご家族とのより良い関係づくりが第一であるとの思いから、密な関係づくりに努力をされていきました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議、職員会議などを通じ、意見や提案などを聞く機会を設けている。また、職員との直接対話で日々の業務の中で気づいたことや、ケアについて提案してもらい、常時意見交換し、反映させている。	園長・管理者・職員の良好な関係が築けており、お互いに自由な意見交換が出来る中で、業務に対する思い・不満・ストレスなど、職員コミュニケーションを図りながら改善方向に努力されていきました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間、休み希望などをできるだけ聞き入れ、「無理なく働ける」「働き続けられる職場」であるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に施設内研修を行い、施設外研修も全員受講する機会を設けている。資格取得希望者には、取得費の立替をしたり、勤務時間への配慮をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	倉敷市介護保険事業者連絡協議会や日本認知症グループホーム協会などが主催する研修、分科会に積極的に参加し、他事業所の職員との交流の機会にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に確認が出来る場合は、適切な回答を得てその方に合った対応に努める。難しい場合は、家族や関わりのある方に、生活状況や情報を頂いている。日常生活の中での言動や表情を観察して、要望や不安な事を汲み取るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人がここでどのように生活してほしいか、家族に意向を聞いたり、不安や困っている事がある時には、どのようにすれば解決できるかを一緒に考えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族から話を聞き、本人や家族がまず何に困っているか、何を気にされているかを話し、どのような支援をすれば安心してもらえるかを一緒に考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	私たちは介護をしているという目線に立たず、今出来る事を一緒にやったり、考えたりしている。そして一緒に楽しめる環境を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはゆっくりと過ごしてもらえるよう配慮している。また日頃の様子を報告して、本人にとって良い事悪い事、必要な事を一緒に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所に出向く事は出来ていないが、馴染みの方に気軽に来て頂けるよう施設を出来るだけオープンにしている。面会があった時には家族へ報告をし、次の来園につながればと思っている。	利用者も地元の方が多く、隣接するスーパーへの買い物時、又、病院受診時など日常的に交流が出来ていました。また家族の協力を得ながら利用者の希望に添うように事業所として努力されてきました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う同士と一緒に過ごせるよう席を作ったり、席替えを行ったりしている。孤立したり、机に臥せておられる方には、職員が声を掛け、居場所作りをするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退後も入院先へお見舞いに行ったり、ご家族に連絡を取り様子をお伺いしている。退院後の居場所についての相談を受けたり、可能な限りの支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思考調査や興味があるものの問いかけは出来ているが、問いかけに対して、しっかりと主張できる方はほとんどいない。主張が困難な方には、どのようにしたら楽しい事が増え、しんどいと感じる事が少なくなるかを主に検討している。	入所者それぞれの思いを大切に、日々の生活の中で職員が寄り添い細やかな視点での対応がなされていました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅や施設での生活をどのように過ごされていたかを、本人以外にも家族や施設スタッフなど第三者の方の目線からも話を聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人が一日をどのように過ごされているかを把握できている。体調だけでなく、心身の様子も様子観察し、変化がある時には職員間で報告しあい、引き続きの様子観察が行えるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	まず本人、家族の意向を中心に、職員がどこまで出来るかを検討。その他で、本人に必要な支援をカンファレンスし作成している。	職員が一つのチームとなり、日常業務の細やかなケアの中から得た利用者の言葉、行動を大切に介護計画が作成されていました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にモニタリングを行っている。その時その時の本人の状態の変化や、対応の変更が必要と思われる時には申し送りや口頭でできるだけ職員全員に早く情報が伝達できるようにして、その方なりの対応が出来るように検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	計画書を基本としているが、その時の本人の状態や環境により、本人にとって良い対応がある時には、職員同士相談をしてその方法を実施する。申し送りをし、その方法が適していたのかも反省している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的、又は不定期に幅広いボランティアの方々の訪問を受け、楽しい時間を共有していただいている。近隣の店や、図書館なども利用し、地域の方々との交流も大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望されているかかりつけ医に診てもらっている。往診を利用されている方は週2回 職員が医師に直接報告や相談をして指示をもらっている。何か指示がある時には家族に報告を行っている。	家族の協力も得ながら、病院への受診対応がされていました。必要に応じて担当職員が状況説明書を作成して連絡も取っていました。医師の往診・訪問看護の活用など積極的に 医療連携に努力をされていました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師の訪問があり、体調や病院受診の内容を伝えている。緊急性がある時や相談がある時にはいつでも連絡が取れるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関への情報提供がスムーズに行えるように情報資料を一元化している。普段から協力医療機関を中心に医師、看護師の方とのコミュニケーションを心がけ、日常的な情報交換を行い、何でも相談できる関係作りを構築している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際の対応についての説明書を作成し十分な説明を行っている。看取り介護についての意向調査を行い、それを元に医師、家族、職員が連携を取り情報を共有し、できるだけ本人、ご家族の意向に添って支援していく方針である。	本人、家族の希望に添いながら重度化、看取りのあり方について全職員で話し合い、関係者を交えて前向きに取り組まれています。	ターミナルケアの必要性はこれから高まってきます。医療連携にも熱心で前向きな努力をされていますので、これからも継続して取り組まれる事を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的ではないが、救急法の講習を受けている。緊急時には、管理者、看護師に迅速に連絡を取り指示が出るようにしている。事故、急変時の初期対応の仕方、応急手当の実践は、今後も施設内研修で確実に身につけていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力を得て、日中、夜間を想定し利用者と一緒に避難訓練を行っている。今後は、非常食の準備や地震、水害についての話し合いを深め、地域との協力体制を具体的なものにしていきたい。	訓練も実施されていました。市のハザードマップを参考にした対策も検討されました。	近年災害は火災だけでなく、地震・水害など想定外の災害が発生している中、1事業所だけでは対応できない場面もありますので、多面的な防災対策の検討をお願い致します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が声掛けには気をつけよう意識している。気になる時にはお互いに注意し合えるようにしている。	個性を大切にしながら言葉かけ、誘導等にも細やかな配慮がなされていました。個人の行動パターン 場面場面に合わせた対応がなされていました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や要望を言いやすい関係を心掛け、会話をすることで伺っている。また、本人が選択決定できるような質問の仕方をするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	重度の利用者の方が多い為、決まった介護に追われてしまっているが、できるだけゆっくりと話が出来る時間を作っている。個々の生活リズムを大切に、安心して過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容・整髪を行い、季節に合った衣類を職員と一緒に選んだりしている。ボタンが取れていないか、服が汚れていないか常に気をつけて見ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方には野菜の皮むきなどを時々してもらっているが、一部の方だけである。利用者の方には何が食べたいかリクエストを聞いて提供したり、食事の形態や嚥下状態を考慮し提供している。	利用者のレベルに合わせて食事形態、食器等にも配慮されていました。行事・季節に合わせた食事職員も職員の思いがこもったものが提供されていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量が少ない方はチェックし、ゼリーやジュースその他工夫をして水分摂取を試みている。食事の摂取量が少ない時には栄養補助食品や本人の嗜好品などで対応している。主治医にも相談をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に声かけ、誘導を行っている。就寝前は義歯を預り、入歯洗浄剤で洗浄している。ご自分で歯磨きが出来ない方は、職員がガーゼや口腔ケアスポンジなどを使用し、口腔内の清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで排泄できるよう定期的な時間と本人の様子を見て誘導を行っている。夜間はオシメ等を使用する人が多いが、日中はリハパン・綿パンに着替え、トイレに行ってもらっているようにしている。	本人の能力に沿った支援に努め自信が持てるよう、優しい言葉掛け、見守りがなされました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状態が把握できるようにボードにチェックをしている。水分や牛乳を飲んでもらったりマッサージを試み、便秘の状態が長く続かないように便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間や曜日は職員が決めているが、その日の本人の状態や、臨機応変に対応している。入浴時間は1対1の時間なので、ゆっくりと話をしてくつろげる時間作りをしている。	個々の入浴習慣に沿ったゆったりとした時間が過ごせるよう配慮されていました。声かけを非常に優しく、穏やかな対応ができていました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調不良・夜間不眠の時には自室にてゆっくり休んでいただくようにしている。休息程度の昼寝も自由にしてもらっている。その時の空調には気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は常に最新の物をファイルに綴じて、すぐに見る事が出来るようにしている。新しく追加された薬はスタッフ全員に報告し状態変化に気を付ける。便秘薬は個人の状態に合わせて調整している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月1回の行事、毎月の誕生日会を楽しんで参加してもらえるように計画している。誕生月には本人の希望する食事やデザートを書いてメニューに加えている。天候の良い日には外に出て、季節の景色や空気を感じてもらっているようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物に出かけたり、ドライブに行ったりしているが、ADLの低下に伴い、外出する機会は減っている。6月には外出を計画し、行きたいところや食べたいものをリサーチし楽しんでいただけようになっているが、希望を言えない方や店で食事が困難な方が増えてきた。	個々の利用者に合わせた、対応ができていました。季節行事などの機会を活用し、外出機会の幅を広げる努力をされていました。身体的に遠方への外出が無理な方には、近所周りの散歩など出来る範囲の外出支援に努力がされていました。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則としてお金の所持はできないことになっているが、希望されるものがある時には、職員といっしょに立替金で買い物し、本人が安心、満足できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話や手紙のやり取りが自由に出来るよう支援している。職員が、家族に連絡を取るときには、伝言があるか、話をされるかを本人に聞き、本人が希望されるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の食材を食事に取り入れたり、壁面で季節感を取り入れたりしている。特に空調は利用者の方の様子や意見を聞き調整をしている。	限られた空間でどうすれば入所者にとって居心地の良い空間になるか、日々楽しく過ごしていただけるのかといった思いで職員が努力されていました。防災の観点にも目を向けた、配置がなされていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席は決まっているが食事以外の時間は自由に座って話をしてもらえるように対応している。また、玄関先にベンチを増やし、外の空気を吸いながらゆったりと過ごして頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自宅で使用していた物や必要な物は持参してもらっているが、転倒等事故につながるものはお断りする事がある。室内に手すりや鏡を取り付けるなど、生活に必要な時には部屋のプチリフォームもしている。	居室は個々の個性が活かされている。強制ではなく、利用者本位の居室づくりがされていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングや廊下には必要などところに手すりをつけ、居室にも必要な物は設置するようにしている。居室内では利用者が安全に過ごせるよう環境整備(ベットや家具の配置)、自立を促す見守り支援に努めている。		